



とっても暑い！

暑いとき、ポーポキは涼しい場所を探してお昼寝をします。

あなたはどうしますか？電力をたくさん使わないで涼しく過ごすことができますか？

Popoki's Hot News!



この秋のイベント！

ポーポキと一緒に平和と健康を考える Part 5!

10月15日 兵庫医療大学地域連携室

ポーポキのピース・ブック3や「ポーポキ友情物語

～東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅～」



ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『ポーポキ、元気って、なに色?』や、ポーポキのほかの本は、お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのチャクマにゃんから届いた平和。

「私たちが他の人のために手助けし、祈る時に本当の幸せを見つけることができます。だから、慈悲や平和のために一緒に働き、世界の平和のための祈りを探しましょう。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。
ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



灘チャレンジ 2015 のビデオ!!! ポーポキの URL か下記のリンクでどうぞ!

<https://youtu.be/7LcYzZzNQYg> and <https://youtu.be/WYdWwmwogkE>





**ポーポキ・ピース・プロジェクト・Popoki Peace Project
10th Anniversary**



ポーポキ・ピース・プロジェクト創立 10 周年をどのように記念しましょうか？

- ポーポキ・ピース・プロジェクトができて10年。
- 4冊の絵本。たくさんのにゃん友だち。さまざまなワークショップ。スタディツアー。延べ約200メートルのポーポキ友情物語の布。
 - 数々の笑顔。
- 最初の10年をふりかえり、次の10年に向けるためにどうすれば良い？みんなの素敵なアイデアをお聞かせください。
 - 今まで出たアイデアはたとえば…
 - 新しいTシャツをつくる
 - グッズ（バッグ、帽子、クリアファイルなど）
 - ポーポキ郵便切手
 - 映画の上映会（原爆を中心？ちょっと高いものとか、数本とか？）
 - ポーポキを語り合うパーティーや合宿
- 子どもの権利条約フォーラム2016の分科会を立ち上げる



**あなたの提案は？ronniandpopoki@gmail.com へ
ぜひあなたの素敵なアイデアをお送りください！**



2回目の灘チャレンジ！

まゆこにゃん

7月3日、ポーポキ・ピース・プロジェクトのメンバーは、今年も灘チャレンジに参加しました。快晴の1日、たくさん子どもたちと一緒に絵を描いて遊んだり、シャボン玉をとばして遊びました。私は去年に続いて2回目の参加でした。1年ぶりに会えたポーポキメンバーもいて嬉しかったです。去年は、正直あまり灘チャレンジ自体の意味や全体像を理解していなかったのですが、今回は一度、5月に実行委員会の会議に参加する機会がありました。この会議を通じて、地域の方達と学生がたくさんの意見交換を通じて、子どもたちや障害のある人の視点を大事にして、お互い協力しあいながら灘チャレンジを作り上げているということ、みなさんのこのおまつりにかける思いを、感じる事ができました。このように灘チャレンジに対して私の中で理解が深まり、去年よりもおまつり全体を楽しめた1日になりました。



チョークで
お絵描き♪



にゃんたちで、ビンゴ大
会にも参加しました



ポーポキとなかまたちは、楽しんで
灘チャレンジで多様性への挑戦を乗り越えました

ちゃんにゃん
まゆこにゃん

何よりもまず、ポーポキとなかまたちにとって今年の灘「チャレンジ」は悪天候の予報でした。ポーポキとなかまたちは、灘チャレンジが悪天候によって中止されるかもしれないという連絡を受けました。幸運にも、多様な人々と、ゲームや活動ができるくらいに良い天気だったため、ポーポキたちはとても喜びました。そうして、2016年7月3日に都賀川公園で、楽しく無事灘チャレンジを迎えることができました。

この灘チャレンジは20年以上開催されており、今年で23回目を迎えました。このお祭りは1995年の阪神淡路大震災で被害を受けた地域コミュニティを元気づけるため、神戸大学の学生と灘地域の人々が協力して始まりました。多様な人々がお互いに助け合うこと、住民のための避難所運営やケアを行うために、人間関係やコミュニティが組織されることの大切さの認識を反映しています。特に、この灘チャレンジでは灘地域の、多様性を持つコミュニティの形成と促進を願っています。灘には異なる年齢、能力、民族、国籍の人々がともに暮らしています。灘チャレンジは、「多様性の中での共存」を通して、多様性を持つこのコミュニティにおいて重要な役割を担っています。

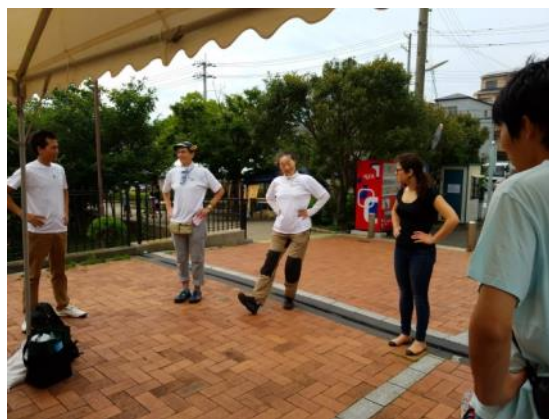
ポーポキとなかまたちもまた、平和と団結を持って多様性を乗り越えること挑に戦っています。人と違うということで、時に私たちの間で多様性が生まれることは否定できません。でも、ポーポキとなかまたちはこの多様性によって生まれる問題を解決したいと思っています。なぜなら、ポーポキのメンバーみんながお互いの多様性とそれでも共存できるということを尊重しているからです。

ポーポキとなかまたちがどのように多様性を受け入れたのか、これはとても興味深いことです。もしかしたら、彼らがいつも楽しく平和的であるという事実に驚く人がいるかもしれませんが。しかし、ポーポキはいつもとてもシンプルな答えを持っています。つまり、「多様性の中での共存」ということです。実際にポーポキのなかまたちは、異なる年齢、能力、民族、そして国籍の人々で構成されています。

灘チャレンジでは、ポーポキたちは一生懸命にそして盛大に、協力して活動しました。ポーポキのグッズを売ったり、遊びに来た子どもたちとはチョークを使って絵を描いたり、シャボン玉で遊んだりしました。グッズを売るテントのそばでシャボン玉を吹いて、そして地面には子どもたち自由に楽しく、お絵描きをするスペースを設けました。何よりも、ポーポキとなかまたちはフリーマーケットを見て回り、面白いゲームや伝統芸術の発表や唐揚げや焼きそばも楽しみました。

ポーポキたちが見せた皆で共に協力し合う姿勢は、人々が多様性の中で尊く共存していくことができるということを示しています。ポーポキのメンバーは異なる宗教、言葉、民族や国、文化、年齢と能力を持つ人々たちですが、彼らは多様性の中にも一つのチームワーク

を作り上げることの可能性を示しています。同様に、灘に住む人々も年齢、能力、国籍などが異なりますが、この灘チャレンジは多様性の中で灘の人々が共存するという挑戦を、乗り越えていくことができるということを映し出したお祭りであったと思います。





7月16日に、ポーポキのお友達みんなで大阪の釜ヶ崎にある「子どもの里」というところに行き、そこに集まってくれたとても元気な子どもたちと楽しいプログラムをしました。(釜ヶ崎は、日本の中でも大きな日雇い労働者の街の一つとして知られています。子どもの里は釜ヶ崎の子どもたちのための安全で自由な遊び場を提供するという目的で1977年に開設されました。現在では子どもの里は子どもたちだけではなくその親なども、安全に過ごせたり、遊べたり、休んだりできる場所、そして居場所を必要とするすべての人のための場所となっています。)

まず最初に、ポーポキの絵本の中から何ページかを選んで読み聞かせをしました。子どもたちは平和をより身近に感じてくれて、とっても一生懸命にお話を聞いてくれました。

次に、私たちは2つの遊びをしました。この2つの遊びの目的は他の人たちと一緒に団結して問題を解決することの大切さと、その難しさを感じてもらうことでした。

最初のゲームは、7～8人の小さなグループに分かれて、ファシリテーターの言うように新聞紙をだんだん小さく折り畳みながらも、全員がその上に立てるように協力しあうというものでした。全員が片足立ちになったり、あるグループではなんと肩車をしたりしている人たちもありました！

次のゲームはみんなで肩を組んで輪っかを作ってしゃがみこんだ状態から、足首を隣の人とくっつけて、そのまま一斉に立ち上がるというものでした。輪っかの人数が増えれば増えるほど、一斉に立ち上がるのも難しくなりました。みんなで、隣の人となるべく近づいて、バランスをとるのを助け合えば少し立ち上がりやすくなるということを発見しました。

このプログラムの後には、子どもの里の館長の荘保さんが子どもの里についてのビデオを見せてくださいました。

このプログラムは私たちにとって、とても元気な、しかし同時に貧困や様々な生きづらさを抱える子どもたちと触れ合うとても良い機会になりました。また、子どもたちにとっても同じように平和や助け合うことについて考える一つのきっかけとなる機会になっていればいいなと感じています。





広島に原爆が投下されて 71 年も経過しました。ポーポキはここ数年と同じようにこの日にまず、まぶしい太陽のもとで友だちと一緒にお互いの姿をチョークでなぞり「影」を描きました。そして原爆が投下された 8:15 に地面に「ダイイン」して、あの日のように自分たちに上に原爆が爆発したらどうなっていたのだろうと想像しながら原爆の犠牲者を追悼しました。

その後、YMCA に行き、アメリカのピッツバーグ市で活動拠点を持つ **Remembering Hiroshima Imagining Peace** のみなさんとグアムの活動家とスカイプで話し合いを持ちました。技術的な問題が多かったにもかかわらず、面白い話ことができました。最初は、それぞれが昨年のお話し合い以来のことを報告しました。ピッツバーグからは、森住卓の福島第一原発事故による放射能を可視化する写真を展示している活動について報告がありました。グアムからはグアム島北部やマリアナ諸島の他の島における米軍の活動拡大についての気になる報告がありました。この拡大は沖縄から海兵隊がグアムへ行くことと直接関係しています。日本からは、多くの市民の反対にもかかわらず、電力会社が政府の支持を得て原発の再稼働問題や新しい原発の建設を進めていることや、憲法 9 条の改正や自衛隊を自衛軍にし、海外へ派兵する政府の動きが報告されました。

その後の質疑応答はまず、市民参加についてでした。もりにゃんはユースの政治に対する関心について質問しました。アメリカでは、サンダーズを意欲的に支援していた若者はクリントンを支持するか、それとも投票しないあるいはグリーン党を支持するかはまだわからない。また、アメリカは分断されており、それぞれの立場の人はお互いに話さないことを学びました。

イエニにゃんは、インドネシアでも同じようなことが起こっていると指摘しました。選挙後の分断や攻撃的な発言などが多いと言いました。ちゃんにゃんは、ミャンマーでは民主主義への移行がうまく行くためにはユースの政治参加が不可欠だと指摘しました。アメリカでは、現在はとても危険な時期であると同時に希望やエネルギーに満ちた時期でもある、という指摘もありました。今はもしかすると、アメリカの政治を変えることや、環境問題や不平等、レーシズムに取り組むチャンスだという可能性があります。しかし、それがどのように展開されるのは、11 月の選挙の結果によって大きく左右されるでしょう。

グアムからは、チャモロの人々は何千年もグアム島にいるのに対して、アメリカの歴史は数百年しかありません。アメリカ軍にとって、グアムはなぜ大事かという、アメリカ本土以外のどの場所からも追い出されてもグアムが残ると思われているからです。しかし、グアムの人々は、未来をアメリカの一部として歩みたいか、それとも自由連合を結びたいか、独立したいかを決める準備を進めています。



今年のスカイプの前に、ピッツバーグで核廃棄物について「Containment」というドキュ

メンタリーの上映がありました。ろにゃんは、日本ではそもそも核廃棄物を保管する場所が不足しているところに福島県での除染活動による廃棄物が大量にあります。原子力は「クリーンエネルギー」と言われるが、ウランの掘り出しや加工、生産、運送、廃棄物などを考えると本当にトイレなしのマンション状態です。みんながそれに同意し、そしてベヴァクア先生はグアムに冷戦時代にもグアムに核兵器があったことについて話しました。日本に核兵器はないはずですが、日本にもありました。

最後にお互いにまた来年に話ができるのを楽しみにしているとあいさつし、集まった理由を再確認しました。それは広島を追悼しつつ、核のない平和な世界を想像し創造することです。みなさん、ご参加、ありがとうございました。



ポーポキと一緒にいった熊本を振り返る



みおにゃん

熊本から戻ってひと月ほど。私の記憶がどんどん薄れていることに、今とても驚いている。

たった二日間、益城町の避難所で過ごした時間は 20 時間にも満たなかったけれど、戻った直後はもっともっと長い時間を過ごしたように感じていた。悲しい気持ちや小さな怒り、他あれこれの思いが入り混じっていたから。

だんだんと沈んでいくさまざまな記憶の中で、ひとつくっきりと忘れられない絵がある。

黒いペンで描かれたその顔は、10 歳前後の子供が描くには少しグロテスクな表情で、頭には矢とナイフが刺さっている。頑に黒だけで描くことにこだわった彼が、それでも傷口だけは赤く塗ったのが、とても切ない。

地震は天災で、誰の責任でもないけれど、もし彼の絵がずっと黒いままだったら、それはきっと大人の責任だ。

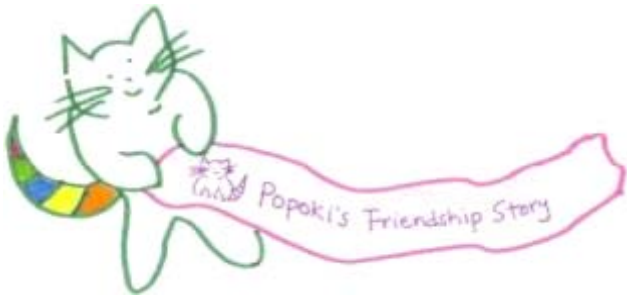
12 色入りのクレヨンでは足りないほど色鮮やかな絵を描けるように、熊本の子供たちを応援したいと、思っている。

熊本 YMCA 指定管理避難所訪問

もちにゃん

7 月に訪問した際は、いまだ避難所や駐車場、半壊している自宅で暮らしていました。先行きの不安を抱えて日々送ること、気を張っている様子でした。自然の恩恵を受けながら、時には自然の強さとともに暮らしていることを忘れてはいけなと感じました。また、住環境は、暮らしの安心感と社会の一番小さい単位の家族をサポートしているものだと感じました。引き続き、熊本被災地の変化や声に耳を傾けていきます。





Popoki's Interview

聞き手 もいにゃん(東 恭子)

「原発震災」 関東からの避難 S さんのその後

東日本大震災から 5 年目を迎えました。ちょうど 1 年前に、原発避難者の中でも関東から自主避難されてきた S さんのインタビューをここでご紹介しました。福島では、行政は 5 年が経過し帰還にむけた動きが進められています。5 年が経過し、除染した放射性物質の処理問題や避難する権利など、解決されていない問題がある中で原発再稼働が進められ震災前に戻ろうとしています。混乱の中から 5 年を経てどのような状況となっているのか、再び S さんにお話を伺いました。

○ 5 年を経て、行政などの支援はどのように変化していますか？

関東からの自主避難なので、元々行政からの支援はありません。月に 1 度、神戸市危機管理センターからイベントなどの案内を貰っていますが、年々減っているので風化してきていると感じます。特に熊本地震以降、地震の被災と東日本の被災とが同じように多くの人に受け取られているように感じます。原発事故の避難者は訴訟も含めて長い長い問題となっているにも関わらず同じように扱われてしまうことは残念に思います。

○ 体調の変化など、感じることはありますか？

先日も避難者同士の繋がりの中で、5 年経ってこれまで甲状腺や副甲状腺に異常が無かった子供たちにも定期検査で異常が見つかってきています。どこの医者にかかるのが良いか悩み、異常が見つかって CT をとるか悩み、幼い子どもに造影剤を使うか悩み、細胞検査をする為に全身麻酔させる事にも心を痛め、もう胸がえぐり取られるような気持ちだと口々に言われます。そんな話をよく聞くようになり、今後も自主的に定期的に検査をしていく大切さを実感しています。これら全てが親の負担です。費用など経済面もメンタル面も全て個人の責任となっています。事故や放射能との因果関係が認められないので、関東からの避難は特に泣き寝入りしかないと皆肩を落としています。

私事ですが、5 年経って先日流産したことをチェルノブイリ等の被ばくに詳しい医師に質問したところ、事故後極端に高くなるグラフが時と共に減るのではなく横這いというデータからみても、遺伝子に問題が生じる被ばくでは 5 年経って流産ということもあり得るというお話でした。放射能の被害は国も認めていません。その間にどれくらいの子どもたちが犠牲になるのでしょうか…

○ 知ってもらいたい現状はありますか？

福島原子力発電所はまだ収束していません。海に毎日毎日、汚染水が流され、今でも事故の時ほどでなくても放射能は出続け、人が入れない場所がこの日本にある現実が、5年経っても続いていることを知ってもらいたい。そして、避難してきた私たちがいることを知ってもらいたいです。これらの状況は、チェルノブイリと同じレベル7であり、こうした状況が今も継続中だということを知ってもらいたいです。収束もしていないのに、次々に原発再稼働なんて… また同じ過ちを繰り返すのでしょうか。

「原発震災」の実状とはなにか？それは、単に被ばくする、という物理的な問題だけではなく、被ばくするかもしれない、ことへの不安や対策については具体的には語られてくることはありませんでした。その観点からも、「原発震災」の被害の実状は明らかになったとは言えません。誰もが、避難の権利や安心安全に暮らせる権利をどのように実現していけばよいのか。私たちは、お互いに実状を伝え、知る努力を続けることで、具体的な提案ができるように、これからも考え続ける必要があることを改めて確認しました。



福島県内でのモニタリングポスト

<http://saigaijyohou.com/img/20140731220953sadusi.jpg/>



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 99

暑さをしのぐには、ゆっくり雑誌でも読むのは良い。今月は特別な雑誌ポガ！
今月のテーマは、読みながら涼しくなり、そしてリラックス！



＊できるだけ大きな雑誌を選ぶことがおすすめです！

1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. さて、仰向けになりましょう。雑誌を両手に縦に持って、手をまっすぐ上へのばしましょう。雑誌を持ったまま、伸ばした手を頭の上へゆっくりもって行って…。そしてゆっくり戻して…。
 3. 次は、雑誌を体と平行に持ちながら、伸ばした手を右へ、そして左へ。
 4. そして、疲れた自分をほぐす。雑誌を顔の上にして、ひと眠り！
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会：9月2日 19:00～ 神戸 YMCA

- ＊ 10月7日～10日 ポーポキin大槌町
- ＊ 10月15日 14:00～16:00 「ポーポキの平和と健康ワークショップ」兵庫医療大学地域連携室
- ＊ 10月26日 ポーポキat網干高校 ワークショップ
- ＊ 11月3日 ポーポキ at トロント・ヨーク大学 (予定)
- ＊ 11月7日 ポーポキ in ピッツバーグ
- ＊ 12月下旬 ポー年会
- ＊ 2017年2月 ポーポキ in 大槌町

ポーポキの友だちからのお知らせ

- 7.28「7月28日を子どもの命を守る日に」主催。「都賀川水難事故犠牲者をしのぶ会」都賀川公園（「グルメ シティ灘」の東側、甲橋付近）。問い合わせ先:090-2704-0546
- 新刊案内！赤城修司『Fukushima Traces 2011-2013』オシリス 2015年3月20日。
すてきな写真集です。注文などは:下記のサイト又は前田圭子さんへ。

m.dodo@h2.dion.ne.jp <http://www.shashasha.co/en/book/fukushima-traces-2011-2013/>



Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！<http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』（貝原加奈 2014.4.25 28面）
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』（2013.8.23 朝刊 地域経済 8面）
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』（2013.8.7 朝刊 22面）
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』（2013.2.16 夕刊 4面）
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29（「今、平和を語る」、夕刊、1面）
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO : 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21（兵庫・29面）
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19（伝える1・17 3・11、22面）
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの』（連載）とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ：こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243（関西外大通信）
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」（阿久沢悦子）2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と〜」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6（北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」）「新刊紹介：『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（レベッカ・ジェニスン） p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」（斎藤雅志）神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。（リンクは現在無効）
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8（アジア女性交流・研究フォーラム）
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり 6名がパネル制作」2008.10.8 10面





私にとってのポーポキ

竹下葉月

「土に根を下ろし 風と共に生きよう。種と共に冬を越え 鳥と共に春を歌おう。」
これは宮崎駿監督の映画「天空の城ラピュタ」に出てくる一節です。自然の偉大さやそれぞれの季節の音が想像できるようで、なんとなく気持ちがスッとして背筋が伸びるような気がする大好きな言葉です。

自然や生き物と共に生きることは簡単なことばかりではないと思います。人間同士のコミュニケーションも同じように、時にとても難しいです。でもだからこそ自然の美しい風景や瑞々しい植物の新芽を見た時、他の人と分かり合えたと感じるときにとても嬉しくなったり元氣になれたりするような気がします。

私がポーポキと出会ったのは今年の春でした。今まで参加してきた活動の中で、色々な国の人と出会って、一緒に助け合いながら色々なお話をしたりしました。私にとってのポーポキは、自然の中で共に生きている人たちと助け合いながらこれからも平和に生きていきたいなあ、と改めて感じさせてくれるような場所になっていると思います。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!